

# 日本における夢研究の展望 —夢に関する博士論文を中心に—

名島潤慈\*

## A review of dream research in Japan: Focusing on dissertations on dreams

Junji NAJIMA

### I はじめに

以前筆者は日本における夢研究、つまり夢（夜見る夢）に関するさまざまな研究を展望したが（名島, 1993）、これは夢についての本・論文・エッセイなどに基づいて明治時代から平成時代初期までを展望したものであった。

ところで、大学生・大学院生の論文には卒業論文・修士論文・博士論文があるが、本稿では夢についての博士論文を取り上げたい。博士論文は、課程博士にせよ論文博士にせよ、博士号を取得するための専門的論文であり、厳しい審査にさらされる。

本稿では夢に関する博士論文を基にして夢研究を展望するが、博士論文の題名のなかに「夢」という字が見られても、博士論文のなかで夢そのものについての吟味が直接かつ深く行われていなければ、本稿では除外した。具体的には、「キーツ—その夢と現実—」（松浦暢, 1985）、「世阿弥の女体夢幻能に関する研究」（金忠永, 1994）、「中世物語の研究—『夢の通ひ路物語』を軸として—」（安藤百合子, 1997）、「Henryの夢：John Berryman, The Dream Songsにおけるミントレルショー」（山中章子, 2007）、「デイドロにおける科学的認識論、思考、テキストの内的連関—『ダランベールの夢』の事物の多層的な象徴性を通して」（河村文重, 2008）、「『夢応の鯉魚』研究」（橋本静, 2009）、「『夢の通ひ路物語』の研究」（森優子, 2020）という7つの博士論文を除外した。また、夜見る夢以外のもの、つまり催眠夢や覚醒夢（白日夢・白昼夢）についての博士論文もすべて除外した。

夢に関する博士論文の題名の検索は、国立情報学研究所の CiNii Dissertations や国立国会図書館サーチを用いた。博士論文の内容は、博士論文の要旨や審査結果、博士論文執筆者の学会誌や研究雑誌への投稿論文などを参考にした。

### II 夢に関する博士論文名

夢に関する博士論文名は表1にまとめた。博士論文それ自体は製本された1冊の印刷物であるが、その内容については、各研究者が最終的に博士論文として1本にまとめる以前に学術論文として、あるいは博士論文としてまとめた以後に（博士論文としての審査をパスして博士号を授与された後に）1冊の本として出版したりすることが多いので、表1の「学位授与大学・主要文献」の欄に著者名と出版年を記した（出版年は博士論文と関連した論文ないし本の出版年）。

ちなみに、表1に含まれていない博士論文で特記しておきたいのは、文化人類学者の岩谷彩

---

\* 山口学芸大学名誉教授

表1 夢に関する博士論文の一覧表

著者	学位授与年月日	博士論文名	学位授与大学・主要文献
いちはらまさお 市原正雄	1951.10.17.	夢に於ける嗅覚並に慢性副鼻腔炎患者の夢に就て	千葉大学 [医学博士], 市原 (1952)
ひらさわとし 平沢敏	1960.2.18.	着色夢に就いての精神分析的仮説*	新潟大学 [医学博士], 平沢 (1959)
よしかわいくお 吉川侑夫	1960.3.30.	睡眠時の夢と記憶に関する脳波的研究	大阪大学 [医学博士]
ふくまえつお 福間悦夫	1970.1.29.	REM期覚醒法による夢の研究—夢の精神生理学的研究—	鳥取大学 [医学博士], 福間 (1969)
すなみゆづる 角南譲	1970.3.31.	慢性分裂病者の夢の精神生理学的研究—精神病者の夢の研究—	鳥取大学 [医学博士], 角南 (1969)
たけおせいき 竹尾生気	1972.3.15.	睡眠時の生理学的諸指標と夢体験—夢の精神生理学的研究—	鳥取大学 [医学博士], 竹尾 (1970)
きむらとし 木村聰	1972.9.22.	催眠暗示による“夢”と逆説睡眠期の夢に関する精神生理学的研究	慶応義塾大学 [医学博士], 木村 (1972)
おだたかお 織田尚生	1974.3.31.	REM期覚醒法による精神分裂病患者の夢の研究	鳥取大学 [医学博士], 織田 (1973)
もといけみつお 本池光雄	1975.3.31.	正常者および精神分裂病者における実験室夢と自宅夢の夢内容の比較—夢の精神生理学的研究—	鳥取大学 [医学博士], 本池 (1974)
こばしよし 小林清	1979.1.6.	REM期覚醒法による自宅夢の研究	鳥取大学 [医学博士], 小林 (1976)
やまなかただしげ 山中忠茂	1981.12.11.	REM睡眠期覚醒法による大学生の夢内容の分析	徳島大学 [医学博士], 山中ら (1981)
カラム・ハリール	1988.3.25.	日本中世における夢概念の系譜と継承—日記と和歌を中心にして—	筑波大学 [文学博士], カラム (1988, 1990)
なしまじゅんじ 名島潤慈	1998.3.20.	夢分析における臨床的介入技法に関する研究	広島大学 [博士 (心理学)], 名島 (1996, 1999, 2003)
たかおひろゆき 高尾浩幸	1999.4.21.	Symbolic meanings of island in dreams (夢における島の象徴的意味に関する研究)	東京医科歯科大学 [博士 (医学)], Takao (1998)
おぎほし 尾崎裕	2001.3.31.	夢遊譚としての唐代伝奇—「枕中記」「南柯太守伝」「秦夢記」—	立命館大学 [博士 (文学)], 尾崎 (1998, 2000, 2001)
かわとうまさし 河東仁	2001.7.16.	日本の夢信仰—宗教学から見た日本精神史—	東京大学 [博士 (文学)], 河東 (2002)
たけなかはつこ 竹中肇子	2002.9.30.	Dreams develop the plot: Four texts in parallel: The Morte Arthur episode of Layamon's Brut, alliterative Morte Arthure, stanzaic Le Morte Arthur and Malory's Le Morte Darthur (夢が導くストーリー 『アーサー王の死』)	千葉大学 [博士 (文学)], 竹中 (2010)

まつだえいこ 松田英子	2003.3.24.	夢想起のメカニズムと臨床的応用	お茶の水女子大学 [博士 (人文科学)], 松田・春日 (1998), 松田 (2000, 2006, 2010)
みやたに ゆみ 宮谷裕美	2004.3.19.	Exploring the manifest dream content of adult female panic disorder patients (成人女性パニック障害患者の夢の研究—ドリームダイアリーテクニックとDreamSatによる内容分析を用いて—)	東京国際大学 [博士 (心理学)]
まきたけし 牧剛史	2004.7.23.	夢との〈かかわり〉についての臨床心理学的研究—自と他の双方向的運動—	京都大学 [博士 (教育学)], 牧 (2002, 2003)
バーナビー・ ブレーデン	2005.5.13.	近代に於ける〈夢〉と〈南島論〉の接続—〈距離〉と〈到来〉の構造と地理表象の機能分析—	九州大学 [博士 (比較社会文化)], ブレーデン (2002, 2003, 2004ab, 2005)
おがわけいこ 小川景子	2006.3.23.	レム睡眠中の急速眼球運動に伴う脳電位と夢見の精神生理学的検討	広島大学 [博士 (学術)], 小川 (2006)
うえのようこ 上野洋子	2007.3.23.	中国における夢観の展開	大阪大学 [博士 (文学)], 上野 (2004ab, 2005), 清水 (上野) (2015, 2019)
さそう みきこ 笹生美貴子	2009.3.25.	『源氏物語』論—〈夢〉の地平から読み解く—	日本大学 [博士 (文学)], 笹生 (2008, 2014, 2023)
にしげし まきこ 西林真紀子	2009.3.18.	古代中国人の夢に関わる思考法の研究	大東文化大学 [博士 (アジア地域研究)], 西林 (2003, 2004, 2006, 2009)
うえの かつゆき 上野勝之	2009.9.24.	平安貴族社会の宗教的心性とその変容—夢観念と疾病認識—	京都大学 [博士 (人間・環境学)], 上野 (2013)
さとうともこ 佐藤朋子	2010.12.3.	De l'enfant freudien: Étude sur la découverte, la thèse et la métapsychologie du rêve comme accomplissement de souhait. (フロイト的幼児について—願望充足夢の発見とテーゼ、メタ心理学についての研究—)	パリ・ディドロ (パリ第七) 大学 (Université Paris Diderot-Paris VII) [博士 (精神分析・基本精神病理学)], 佐藤 (2006)
やまね のぞみ 山根望	2011.3.16.	妊娠期の夢に現れた母性に関する研究—初産婦5人の夢分析から—	山口大学 [博士 (学術)], 山根 (2006, 2011ab, 2015)
いのうえよしあか 井上嘉孝	2012.3.26.	異形イメージに関する心理臨床学的研究—ひとつの夢を理解する試み—	京都大学 [博士 (教育学)], Inoue (2011), 井上 (2013)
からさわたいすけ 唐澤太輔	2012.7.12.	「中間」と〈中間〉—南方熊楠 夢の記述に関する研究／「やりあて」と関連させながら—	早稲田大学 [博士 (学術)], 唐澤 (2011, 2014)
ほりかわともやす 堀川友慈	2013.12.20.	Neural decoding of visual dream contents (視覚的夢内容の神経デコーディング)	奈良先端科学技術大学院大学 [博士 (理学)], Horikawa et al. (2013)

まるやまあきら 丸山明	2015.11.24.	日本の心理臨床実践における夢分析の有効性に関する精神分析的研究—夢を聞くこと・語ることによる精神分析的空間の生成とその治療作用について—	京都大学 [博士（人間・環境学）], 丸山 (2013, 2014)
ちょ ちよん 趙智英	2017.9.20.	『宇治拾遺物語』夢説話の研究	同志社大学 [博士（国文学）], 趙 (2016, 2020)
こなかわひさえ 粉川尚枝	2018.5.23.	心理療法場面で生じる夢の実証研究	京都大学 [博士（教育学）], Konakawa (2016), 粉川 (2018, 2020)
つつい ゆうすけ 筒井優介	2020.3.31.	夢PCAGIPの開発に関する研究—グループでの夢理解について—	関西大学 [博士（心理学）], 筒井 (2015, 2018, 2024)
おか べ さとみ 岡部聡美	2022.3.25.	REM睡眠中の嗅覚刺激が夢の情動性に及ぼす影響—ニオイ知覚の個人差に基づく検討—	筑波大学 [博士（神経科学）], 岡部ら (2017), Okabe et al. (2020)
く せつけん 虞雪建	2024.3.22.	日本古典文学における中国夢遊物語のアダプテーション	総合研究大学院大学 [博士（学術）], 虞 (2022)

\*新潟医学会雑誌に載せられている平沢の論文の題名は「着色夢に就いての精神分析的仮説」となっている。ここでは「着色夢に就いての精神分析的仮説」というふうに訂正しておいた。

子が2005年11月24日に書いた「南インドの商業移動民ヴァギリの生活実践と信仰変容—ミメシスの文化人類学に向けて—」である（京都大学 [博士（人間・環境学）]）。関連論文としてはIwatani (2002)、岩谷 (2003, 2006) がある。彼女の博士論文名には「夢」という文字はないが、博士論文の第5章は「信仰実践としての夢」、第6章は「神の夢の変容 その1：地域の神々との接合」、第7章は「神の夢の変容 その2：キリスト教宣教と改宗」であり、彼女は後に、『夢とミメシスの人類学—インドを生き抜く商業移動民ヴァギリ—』という本を出版している（岩谷, 2009）。

ところで、表1を見ると、1951年に市原正雄が「夢に於ける嗅覚並に慢性副鼻腔炎患者の夢について」という博士論文を書いている。これは夢に関する最初の博士論文であり、内容は、千葉医科大学耳鼻咽喉科の外来患者を対象にして、夢のなかの感覚を調査したものである。各感覚について言えば、視覚は43.3%と最大、嗅覚は2.9%と少ない。なお、慢性副鼻腔炎患者の夢では男女共に、快夢は少なく不快夢が多い。

1960年の平沢敏の「着色夢に就いての精神分析的仮説」は、平沢自身の夢や精神科の患者の見た夢のなかの色彩について、自由連想法を援用してその意味を探ったものである。

1960~1981年まで、脳波やREM期覚醒法による夢の研究がなされている。REM期覚醒法とは睡眠中の被験者がREM期に入ってからしばらくして（普通は5~10分して）被験者を覚醒させて夢を聴取するもので（大熊, 1968）、REM睡眠期覚醒による夢蒐集法とも言う。このREM期覚醒法による夢の研究は、鳥取大学の犬熊輝雄（1926-2010）を中心とする夢研究グループの人たちが行ったものである。これらのうち、1974年に「REM期覚醒法による精神分裂病患者の夢の研究」という博士論文を書いた織田尚生（1939-2007）は後にスイスに留学し、チューリッヒにあるユング研究所の分析資格を1984年に得ている。ちなみに、彼はユング心理学の観点から昔話と夢分析についての本を書いている（織田, 1993）。

1975年の本池光雄の博士論文は実験室夢（実験室でREM期覚醒法を用いて夢を聴取する）と

自宅夢（正常者群は自宅で、精神分裂病者群は病室で朝夢報告用紙に記入してもらう）の比較、1979年の小林清の博士論文は、自宅夢（被験者の精神科医や医療従事者は夢発見器と小型テープレコーダーを用いて夢を自己記録する）についてである。REM期覚醒法の欠点の一つは、実験者が実験室で被験者に付き添って行われるので、被験者の自宅の寝室で見る夢とは内容が若干異なってくる。例えば、性行動が出現する夢は実験室夢では皆無に近い。そこで、被験者が自ら「夢発見器」（Okuma et al., 1970）を用いて自宅で夢を採取するようにすると、自宅夢では性夢が出現してきたりする。

1988年のカラム・ハリールの博士論文は、日本の中世の『吾妻鏡』『玉葉』『中右記』『明月記』『看聞御記』などにおける夢を対象とした力作である。古代の夢が神意の反映とすれば、中世の夢は人間の欲望の反映であろう。彼が1990年に出版した『日本中世における夢概念の系譜と継承』には、付論として「日本人の夢とアラブ人の夢」が載せられていて大変興味深い。カラム・ハリールは後に、エジプト国立カイロ大学文学部日本語・日本文学科教授として、アラブ圏における日本語教育や日本文化の普及に尽力した。

1998年の筆者の博士論文は、夢の意味を抽出するための介入技法についてのものである。この論文は、臨床現場でのさまざまなクライアントとの夢分析の経験や、筆者自身がアメリカで対人関係精神分析の精神分析医から受けた夢分析の経験（名島, 1995）がもとになっている。

1999年の高尾裕幸（夢のなかの島の象徴的意味）、2003年の松田英子（夢想起のメカニズムと夢を媒介とした認知療法）、2004年の宮谷裕美（パニック障害患者の夢）、2004年の牧剛史（夢内容の分類ではなくて夢とのくかかわり>というダイナミックス）、2012年の井上嘉孝（拡充法を用いた吸血鬼イメージと夢分析に関する論考）、2015年の丸山明（臨床場面における夢語りの有効性）、2018年の粉川尚枝（夢の構造面に焦点をあてた夢の意味の検討）といった人々の博士論文も、心理療法ないし臨床心理学に関連している。ちなみに、夢を心理療法のなかで利用した初期の頃の試みとしては、（博士論文ではないが）前田（1956）、鈴木（1958）、小川（1972）、東山（1976）、倉戸（1977）の論文がある。前田や鈴木のものはフロイト流の精神分析のなかの夢分析、小川のはユング心理学の立場に立つ学生相談、東山のはカウンセリング場面における夢の利用で、これはコミュニケーション理論に基づくものであった。最後の倉戸のものはゲシュタルト療法における夢の利用である。

2001年の河東仁の博士論文は、古代から江戸時代までの夢観の変遷を宗教学の視点から通史的に吟味したものである。取り上げられた資料は『古事記』『日本書紀』『蜻蛉日記』『源氏物語』『今昔物語集』『平家物語』『吾妻鏡』『夢応の鯉魚』『椿説弓張月』など幅広く、考察の仕方は重厚である。河東は後の2002年に彼の博士論文を加筆訂正した『日本の夢信仰—宗教学から見た日本精神史—』を出版し、さらには編著者として『夢と幻視の宗教史』上下二巻（河東編著, 2012, 2014）をまとめている。

2006年の小川景子の博士論文はレム睡眠中の急速眼球運動に関連する脳電位変化を手がかりにして夢と急速眼球運動との関連性を検討し、その結果、夢の「活性化—合成化仮説」（Hobson&McCarly, 1977）と「感覚映像—自由連想仮説」（Okuma, 1992）が支持されることを見出している。

2007年の上野洋子の博士論文は中国古代から明代に至る「夢」の観念の展開を吟味し、特に明の陳士元の『夢占逸旨』を深く考究している。中国の夢に関しては既に劉文英（1989）の『夢的迷信与夢的探索』があるが、上野の博士論文はこれに次ぐ本格的な研究である。

2009年には、夢から見た源氏物語を考究した笹生美貴子、唐代あたりまでの古代中国人の夢に関わる思考法を研究した西林眞紀子、平安貴族における夢観念を取り上げた上野勝之の博士論文が書かれている。これらのうち、笹生は後に『源氏物語夢見論』を出版し（笹生, 2023）、上野は

『夢とモノノケの精神史—平安貴族の信仰世界—』を出版している（上野, 2013）。

2010年にパリ第七大学に提出された佐藤朋子の博士論文（フランス語）は、精神分析の創始者であるSigmund Freud（1856-1939）の夢理論の生成と構造、発展を明確化したものである。夢には幼児的願望の充足と睡眠願望の充足があるが、この2つの願望の対立関係はFreudの後期欲動理論である生の欲動と死の欲動の対立と相関関係にある。

2011年の山根望の博士論文は、5人の初産婦が見た計165個の夢を対象として、夢のなかの感情や動物、未来場面などを検討したユニークなものである。山根はまた、妊娠期に見る夢の機能として、受胎の教示、母性的行動の練習、出産への準備、育児に関する助言、母性的意識の発達の促進という5つを挙げている（山根, 2011a）。

2012年の唐澤太輔の博士論文は、博物学・植物学・民俗学をきわめた南方熊楠（1867-1941）の日記に記述された南方の夢、「やりあて」（南方の造語で、偶然の域を超えた発見や発明・的中のこと）、さらには、南方が真言宗の僧侶である土宜法龍（1854-1923）に宛てた書簡のなかに見られる「南方曼荼羅」について深く吟味している。

2013年の堀川友慈の博士論文は、脳から夢の内容を推測するというユニークなものである。具体的には、fMRI（機能的磁気共鳴画像法）を用いて被験者の睡眠中の脳の活動を計測し、得られた脳活動の信号にパターン認識アルゴリズムを適用して解析することによって被験者が見ている夢の内容を解読する。堀川の神経デコーディング（ブレイン・デコーディング）は脳から心を読み取る技術とも言えようが、人間の脳内情報の読み取りにはプライバシーの問題が出てくるような感じがする。

2017年の趙智英の博士論文は、鎌倉時代初期の成立とされる『宇治拾遺物語』のなかの夢を、「夢合せ・夢解き」「予言・神仏が出現」「出来事の発端」「出来事の真実」「出来事の結果」という5つの型に分類したものである（『宇治拾遺物語』は仏教説話や民間伝承の集大成で編者は不詳）。

2020年の筒井優介の「夢PCAGIPの開発に関する研究」のPCAGIP（ピカジップ：Person Centered Approach Group Incident Process）は人間性心理学の村山正治が創始したもので、PCAグループにインシデント・プロセスを組み合わせたグループワークである。夢PCAGIPはPCAGIPを夢に適用したもので、これは小グループで夢提供者が自分の夢の意味を見出すことを援助するためのワークである。

最期の2024年の虞雪建の博士論文は、唐代伝奇のなかの『枕中記』『南柯太守伝』『桜桃青衣』という3つの夢遊物語が日本の古典文学においてどのように受容・増殖・再構築・消費化されてきたかを分析している。ここで言う夢遊物語とは、「一つの夢が物語全体の骨格を形作り、夢中の世界を遊び回ることを夢見することを語るテキスト」である。

### Ⅲ いまだ博士論文として取り組まれていない事項

これまで見てきたように、夢についての研究は精神医学、唐代文学、日本の中古・中世文学、宗教学、古代中国思想、臨床心理学、精神分析学、脳科学など多方面に及んでいる。ここではいまだ博士論文として取り組まれてはいないものの重要だと思える事項について若干触れてみたい。

#### 1. アイヌ民族の夢

既述の岩谷彩子が現地調査した対象は商業移動民（commercial nomads）のヴァギリ（Vaghri）（南インドのジプシー）であったが、日本にはアイヌ民族（Ainu）がいる。アイヌは樺太や北海道、千島の先住民族であり、迫害と受難の歴史を経た後、1997年5月14日にアイヌ新法（アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律）が公布され、ついでそれは7月1日に施行され、2020年7月12日には民族共生象徴空間「ウポポイ」が北海道白老郡白

老町に開設された。ウポポイの中核は国立アイヌ民族博物館である。[北海道にはこの国立アイヌ民族博物館より前に、萱野茂二風谷アイヌ資料館や平取町立二風谷アイヌ文化博物館ができていた。萱野茂二風谷アイヌ資料館の前身は、アイヌ出身の貝澤正・萱野茂らが1972年6月22日に設立した二風谷アイヌ文化資料館である（萱野，2002を参照）。この資料館の初代館長は貝澤正、副館長は萱野茂であった。]

アイヌの夢に関してはこれまでぼつりぼつりといった感じで、「夢に関するアイヌの説話」（吉田，1912）、「アイヌの夢うらない」（犬飼，1957）、「アイヌ口承における『夢』について」（田中，1993）などが書かれ、その後しばらくの時を経て、「北海道アイヌの夢にまつわる口承文芸に関する文化人類学的考察」（孫，2018）という論文が北海道民俗学に投稿された。孫はもともと北海道大学大学院文学研究科歴史文化論講座において、2015年度の修士論文「北海道アイヌの夢占いの『昔』と『今』—信仰実践の伝承と変容」を書き上げていた。

アイヌ語（Ainu language）は話し言葉のみで固有の文字を有しないが、これまで知里編（1923）や知里（1937）、北海道教育庁社会教育部文化課編（1988）を始めとして数多くの人たちの努力でアイヌに伝わる物語や歌が分かりやすい日本語に変換されており、これから少しずつ本格的な夢研究がなされるものと思われる。

## 2. 宗教者の夢

宗教者は生きていることの意味を問う人であり、人生の節目や転回点で意義深い夢を見ることが多い。宗教者の夢についての筆者の基本的観点は、「夢主のパーソナリティや宗教心のあり方は夢のなかに反映されるが（夢の反映機能）、同時にまた、夢を見ることによって夢主の宗教心は深化していく（夢の促進機能）」というものである（名島，2011a）。反映と促進の機能は相互に影響し合う。

ところで、宗教者といっても、夢主本人が既に死去している場合には夢についての夢主自身の感想や連想が得られないので、夢の意味の吟味はむずかしくなる。その場合、見た夢について夢主自身がどのような態度を取ったのか、どのような意味づけをしたのかということが夢主自身の書き残した夢記（夢日記）に記されていれば、夢の意味を吟味することが可能となる。態度や意味づけが記されていない場合、夢主の生活体験や夢主の書き物などから夢の意味を推測できることもある。

宗教者の夢としてよく知られているものとしては、鎌倉時代の華嚴宗と密教兼学の明恵（1173-1232）が19歳から59歳までの間に見た『夢記』がある（山田，1971；奥田，1978；河合，1987；荒木編，2002；前川，2012を参照）。その他、天台宗の入唐僧の円仁（794-864）と円珍（814-891）（上野，2015）、天台僧の慈円（1155-1225）（河東，2003）、真言僧侶の頼瑜（1226-1304）（高橋，2008）、唯識仏教の学徒である多聞院英俊（1518-1596）（多川，2002；小林，2009）などの夢がある。

浄土教の関連では、とりわけ法然（1133-1212）と親鸞（1173-1263）の夢が吟味の対象となることが多い（古田，1975；山田，1986；中村，1988；河合，1988；名島，1996，1997，2011bを参照）。その他、中国浄土教の大成者である唐の善導（613-681）や日本の智光（709?-780?）、空也（903-972）、源信（942-1017）、一遍（1239-1289）が見た夢もある（名島，2009を参照）。

一般的に言って、宗教者の夢の場合、宗教者自身のパーソナリティ、心理的危機、教義をめぐる葛藤、師僧との関係などが複雑に絡み合う。また、夢や夢記の真偽が問題となることも少なくない。特に「教祖」が見たという夢の場合には、信者側の理想化によって夢が歪められたり、逆に新しく作り出されたりすることもある。宗教者の夢に対してどのように接近していくかはなかなかむずかしい問題である。

## 3. 発達段階と夢

人は最初は乳幼児として、ついで児童・青年を経て成人・老人へと発達していく。このような

各発達段階において人はどのような夢を見るのだろうか。

子どもの夢ということであれば、Jung (1987) の『子どもの夢』(Kinderträume) は、Jungが拡充法による深層心理学的解釈を行っていて秀逸である。日本にはまだこれを超えるものはないように思える。

末 (1982) は卒業論文であるが、小学校3年生から中学3年生までの夢の違いを検討している。鑑・平野 (1985) は、夢のテーマについて小学生群・大学生群・社会人群の3つの比較を行っている。大西 (1987) は小学校の4年生と5年生が見るもっぱら性的な夢について細かく記述している。麻生 (1996) は『子どもと夢』において、子どもたちの夢体験や夢理解について丁寧に吟味している。ちなみに、Tazuke (2021) は夢の内容ではなく、夢の構造という視点から20代~70代の392名を調査し、年齢が高くなると「私の主体的行動」と「私の主観的な描写」が有意に多くなるという結果を見出している。

日本人の幼児期から老人期までの各発達段階の夢に関する詳細なデータ作成は、これからの大きな課題であろう。

#### 4. 明晰夢

明晰夢(自覚夢)とは夢を見ている最中に夢であることに気づくような夢で、夢の内容や筋書きを夢主が望む方向に変更できるときがある。明晰夢はレム睡眠において見られることが多い。

普通の夢に比べると、明晰夢は鮮やかである。筆者はあるとき空を飛ぶ夢を見たが、夢の途中でこれは自分が夢を見ているということに気づいた瞬間、空の色や眼下の森の緑色が鮮やかに輝きはじめたことに驚嘆した。また、飛行の方向も筆者の思いのままに変更できた。

明晰夢についてはLaBerge (1985) の *Lucid dreaming* が筆頭であるが、日本でも、渡辺 (2003)、岡田・石井 (2012)、石田 (2013)、岡田 (2018)、松田 (2023)、施・松田 (2024) による緻密な研究がなされている。松田 (2021) の『はじめての明晰夢』は、明晰夢の性質や、明晰夢を見るためのいろいろな方法について分かりやすく書かれている。

明晰夢をうまく活用することによって不眠症を緩和させたりすることができると言われている (Ellis et al., 2021)。また、「明晰夢療法」(lucid dreaming therapy) によって成人の慢性的な悪夢が減少すると言われている (Ouchene et al., 2023を参照)。

明晰夢の持つ治療的効果については今後の展開が期待されよう。

#### 5. 作家と作品の夢

この分野では、論点として、作家自身が見る夢、作家が書く夢の作品(夢そのものを主体にした小説ないし小説のなかで夢が効果的に使われているような小説)、作家自身が見た夢の作品への影響性といったことが挙げられよう。

以前の筆者の調査(名島, 2017)では、夢に関する研究論文等1,316篇と単行本96冊のうち、夏目漱石(1867-1916)の『夢十夜』は198、紫式部(平安時代中期)の『源氏物語』の夢は33、菅原孝標女(1008-?)の『更級日記』の夢は30であり、圧倒的に『夢十夜』が多い。この『夢十夜』に関しては、漱石自身が見た夢そのものであるとか、夢ではなくてまったくの創作によるものであるなど種々の意見があるが、おそらく、漱石が実際に見た夢の断片を出発点として、漱石自身の生活体験や対人関係、願望、思想、文明観などを織り交ぜて10の夢作品に仕上げたのではないかと思われる。ともあれ、漱石はプロの作家であり、しかもこの『夢十夜』は1908年(明治41年)に東京朝日新聞に連載されたものなので、活字化に際しては漱石の徹底した推敲が重ねられている。ちなみに、高山(2011)は明治大学国際日本学部の「日本表象文化論」という授業で『夢十夜』を用いた授業を行っている。これは、博覧強記の高山の読みと、各夢についての学生たちの発表・レポートが刺激的に交錯する大変興味深い試みである。

作家が自分の見た数多くの夢をそのまま出版したのものとして、島尾敏雄(1917-1986)の『記



夢志』(1973)と『夢日記』(1978)がある。その他、Hermann Hesse (1877-1962)の『夢日記』(Traumtagebuch)(ヘルマン・ヘッセ友の会・研究会編・訳, 2009)がある。これは1917年7月9日から1918年8月20日までHesseが書いた夢の日記である。当時の彼は、ユング派の精神分析医のラング博士(Dr. Josef Bernard Lang)の治療を受けていた(Hesseは計72回ラング博士と面接)。

Hesseの残した『夢日記』には数多くの夢と夢についての連想・自己分析が載せられている。これを読むと、彼の小説『デーミアン—ある青春の物語』(Demian: Die Geschichte einen Jugend)と彼の夢とが密接に関係していることがよく分かる(小澤, 1997も参照)。例えば、デーミアンという名前や、小説のなかに出てくる鳥はHesseが夢のなかで見たものである。

夢の持つ創造性と文学との関係性は今後も大きな検討事項となろう。

#### IV おわりに

夢に関する研究は卒業論文や修士論文も合わせれば数多くあるが、本稿では計37の博士論文に焦点をあててこれまでの夢研究を簡単に振り返ってみた。併せて、いまだ博士論文が書かれていないような事項についても言及した。

本稿は研究論文というよりも単なる資料に過ぎないものであるが、夢に関する博士論文を丹念に整理したものはこれまで見当たらない。夢研究者にとってはたぶん、よき参考となろう。

#### 引用文献

- 荒木浩(編)(2002) <心>と<外部>—表現・伝承・信仰と明恵『夢記』— 大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座共同研究研究成果報告書 大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座
- 麻生武(1996) 子どもと夢 岩波書店
- ブレードン, B (Barnaby Breden)(2002)「根っこ」序説 I—夢論/南島論/ヤボネシア— 九大日文, 1, 159-166.
- ブレードン, B (2003)「根っこ」序説 II—夢・接近と反復—島尾敏雄「孤島夢」をきっかけとして— 九大日文, 3, 36-46.
- ブレードン, B (2004a)「根っこ」序説 III—夢・メタファー・進化論— 九大日文, 4, 182-203.
- ブレードン, B (2004b)「根っこ」序説 IV—夢・愛・ユートピア— 九大日文, 5, 140-163.
- ブレードン, B (2005)「根っこ」序説 V—南島論と夢— 九大日文, 6, 32-43.
- 知里真志保(1937) アイヌ民譚集 郷土研究社
- 知里幸恵(編)(1923) アイヌ神謡集 郷土研究社
- 趙智英(2016)『宇治拾遺物語』における「夢」の分類 同志社国文, 85, 38-53.
- 趙智英(2020)『宇治拾遺物語』夢説話の研究 金壽堂出版
- Ellis JG, De Koninck J, Bastine CH (2021) Managing insomnia using lucid dreaming training: A pilot study. *Behavioral Sleep Medicine*, 19(2), 273-283.
- 福岡悦夫(1969) REM期覚醒法による夢の研究—夢の精神生理学的研究(第I報)— 精神神経学雑誌, 71, 960-979.
- 古田武彦(1975) 親鸞思想—その史料批判— 富山房
- 虞雪建(2022) 邯鄲の夢と異国イメージ—黒本『初夢かんとんの枕』を中心に— 総研大文化科学研究, 18, 1-13.
- ヘルマン・ヘッセ友の会・研究会(編・訳)(2009) ヘルマン・ヘッセ エッセイ全集 第1巻 省察I 折々の日記1・夢の記録 臨川書店
- 東山紘久(1976) 臨床場面における夢の利用(Communication理論から) 大阪教育大学紀要, 第25巻, 第IV部門, 第1号, 35-45.
- 平沢敏(1959) 着色夢に就いての精神分析的仮説 新潟医学会雑誌, 第73巻, 補冊第3号, 512-521.
- Hobson JA, McCarley RW (1977) The brain as a dream state generator: An activation-synthesis hypothesis of a dream process. *American Journal of Psychiatry*, 134, 1335-1348.
- 北海道教育庁社会教育部文化課(編)(1988) 昭和62年度 アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズI アイヌ民話 北海道

教育委員会発行

- Horikawa T, Tamaki M, Miyawaki Y, Kamitani Y (2013) Neural decoding of visual imagery during sleep. *Science*, 340, 639-642.
- 市原正雄 (1952) 夢に於ける嗅覚並に慢性副鼻腔炎患者の夢に就て 日本耳鼻咽喉科学会会報, 55(1), 39-46.
- Inoue Y (2011) Contemporary consciousness as reflected in images of the vampire. *Jung Journal: Culture and Psyche*, 5(4), 83-99.
- 井上嘉孝 (2013) 吸血鬼イメージの深層心理学—ひとつの夢の分析— 創元社
- 犬飼哲夫 (1957) アイヌの夢うらない 民族学研究, 21(4), 17-19.
- 石田沙織 (2013) 変性意識状態としての明晰夢体験—明晰夢体験下における意識構造についての一考察— 日本心理学会第79回大会発表論文集, 336.
- Iwatani A (2002) Strategic “otherness” in the economic activities of commercial nomads: A case of the Vaghri in south India. *南アジア研究*, 14, 92-120.
- 岩谷彩子 (2003) 夢の表象から行為へ—人類学的夢研究のための試論— 京都大学人文科学研究所 人文学報, 88, 99-117.
- 岩谷彩子 (2006) 夢が連鎖する空間と主体の生成—南インドの移動民が神の夢を語るとき— (西井涼子・田辺繁治編, 社会空間の人類学—マテリアリティ・主体・モダニティー, 世界思想社, 204-227)
- 岩谷彩子 (2009) 夢とミメシスの人類学 明石出版
- Jung CG (1987) *Kinderträume*. Zürich und Düsseldorf: Walter Verlag. (氏原寛・李敏子・青木真理・皆藤章・吉川真理訳, 1992, 子どもの夢 I, 人文書院) (氏原寛・皆藤章・吉川真理・鈴木睦夫・森谷寛之訳, 1992, 子どもの夢 II, 人文書院)
- カラム, K (Khalil Karam) (1988) 「明月記」にみる夢の考察 社会文化史学, 24, 27-42.
- カラム, K (Khalil Karam) (1990) 日本中世における夢概念の系譜と継承 雄山閣出版
- 唐澤太輔 (2011) 南方熊楠の夢の世界 アジア遊学, 144, 145-153.
- 唐澤太輔 (2014) 南方熊楠の見た夢—パサージュに立つ者— 勉誠出版
- 河合隼雄 (1987) 明恵 夢を生きる 法蔵館
- 河合隼雄 (1988) 親鸞の夢—仏教の父性原理と母性原理— 仏教, 別冊1, 182-189.
- 河東仁 (2002) 日本の夢信仰—宗教学から見た日本精神史— 玉川大学出版部
- 河東仁 (2003) 慈円の夢の歴史的意味 立教大学コミュニティ福祉学部紀要, 5, 139-153.
- 河東仁 (編著) (2012) 夢と幻視の宗教史 上巻 リトン
- 河東仁 (編著) (2014) 夢と幻視の宗教史 下巻 リトン
- 萱野れい子 (2002) ベレー帽にわらじ履き—妻が見た茂の側面— (萱野茂, アイヌのイタクタクサー言葉の清め草—, 冬青社, 169-199)
- 木村聰 (1972) 催眠暗示による“夢”と逆説睡眠期の夢に関する精神生理学的研究 精神医学, 14(8), 725-736.
- 小林清 (1976) REM段階覚醒法による自宅夢の研究 米子医学雑誌, 27(4), 301-313.
- 小林牧子 (2009) 夢が語る中世末興福寺—僧侶の内的生活史—救済と解脱をめぐる— 佛敎大学大学院紀要, 文学研究科篇, 37, 1-19.
- Konakawa H (2016) Attempt at comparison of Japanese and western dreams using structural dream analysis. *箱庭療法学研究*, 29(1), 83-115.
- 粉川尚枝 (2018) 心理療法過程で生じる夢の中の他者、物、場所の役割 京都大学大学院教育学研究科紀要, 64, 193-204.
- 粉川尚枝 (2020) 心理療法過程で生じる夢の意味—夢の構造面についての分析から— 創元社
- 倉戸ヨシア (1977) ゲシュタルト療法におけるDream Workについて 甲南大学紀要, 文学編, 28, 30-55.
- LaBerge S (1985) *Lucid dreaming: The power of being awake & aware in your dreams*. New York: Ballantine Books. (大林正博訳, 1998, 明晰夢—夢見の技法—, 春秋社)
- 牧剛史 (2002) 夢に対する主体的関わり方についての研究 心理臨床学研究, 20(3), 265-274.
- 牧剛史 (2003) 夢と物語—夢へのアプローチにおける物語的視点についての批判的検討— 箱庭療法学研究, 15(2), 17-29.

- 丸山明 (2013) 思春期選択性緘黙症事例の心理療法過程における自己イメージの変化 心理臨床学研究, 31, 810-812.
- 丸山明 (2014) 夢と失われた対象—精神分析における「欠如」の問題を軸として— 京都大学大学院人間・環境学研究科 人間・環境学, 23, 27-41.
- 松田英子・春日喬 (1998) 夢情報を媒介とした認知療法 (DMCT: Dream Mediated Cognitive Therapy) の試み カウンセリング研究, 31, 310-319.
- 松田英子 (2000) 不安夢への認知療法的援助 日本性格心理学会大会発表論文集, 9, 48-49.
- 松田英子 (2006) 夢想起メカニズムと臨床的応用 風間書房
- 松田英子 (2010) 夢と睡眠の心理学—認知行動療法からのアプローチ— 風間書房
- 松田英子 (2021) はじめての明晰夢—夢をデザインする心理学— 朝日出版社
- 松田英子 (2023) 明晰夢の階層性に関する予備的研究—創作活動および芸術鑑賞活動に関心のある社会人の自覚夢・制御夢のデータ分析から— 東洋大学社会学部紀要, 61(1), 53-62.
- 前田重治 (1956) 神経症者の夢に関する二、三の見解 臨床と研究, 33(12), 50-55.
- 前川健一 (2012) 明恵における「夢記」と宗教実践—『華嚴仏光三昧観冥感伝』の周辺— (河東仁編著, 夢と幻視の宗教史上巻, リトン, 353-380)
- 本池光雄 (1974) 正常者および精神分裂病者における実験室夢と自宅夢の夢内容の比較—夢の精神生理学的研究 (第Ⅲ報)— 精神神経学雑誌, 76(7), 473-492.
- 名島潤慈 (1993) 日本における夢研究の展望—歴史と研究領域の概観— 熊本大学教育学部紀要, 人文科学, 42, 283-324.
- 名島潤慈 (1995) アメリカにおける夢分析の経験 精神分析研究, 39(5), 398-404.
- 名島潤慈 (1996) 夢分析における介入技法 日本心理臨床学会第15回大会発表論文集, 126-127.
- 名島潤慈 (1996) 親鸞の夢—康元二年夢告和讃の検討— 心理臨床学研究, 14(1), 1-9.
- 名島潤慈 (1997) 法然の夢—二祖対面の夢の検討— 心理臨床学研究, 15(1), 66-76.
- 名島潤慈 (1999) 夢分析における臨床的介入技法に関する研究 風間書房
- 名島潤慈 (2003) 臨床場面における夢の利用—能動的夢分析— 誠信書房
- 名島潤慈 (2009) 夢と浄土教—善導・智光・空也・源信・法然・親鸞—一遍の夢分析— 風間書房
- 名島潤慈 (2011a) 佛教大学総合研究所主催公開シンポジウム報告 山口大学大学院教育学研究科附属臨床心理センター紀要, 2, 67-72.
- 名島潤慈 (2011b) 夢と浄土教 佛教大学総合研究所所報, 第32号 別冊, 6-14.
- 名島潤慈 (2017) 日本における夢研究の発展と推移—時代と研究領域 中国四国心理学会論文集, 49, 42.
- 中村生雄 (1988) カミとヒトの精神史—日本仏教の深層構造— 人文書院
- 西林真紀子 (2003) 古代中国人の夢—儒家と道家を中心に— 大東アジア学論集, 3, 30-38.
- 西林真紀子 (2004) 真人は夢を見ない 大東アジア学論集, 4, 53-66.
- 西林真紀子 (2006) 古代中国人の悪夢観 大東アジア学論集, 6, 65-85.
- 西林真紀子 (2009) 博論要旨 古代中国人の夢に關わる思考法の研究 大東アジア学論集, 9, 1-3.
- 織田尚生 (1973) REM期覚醒法による精神分裂病患者の夢に関する研究 精神神経学雑誌, 75(12), 1037-1060.
- 織田尚生 (1993) 昔話と夢分析—自分を生きる女性たち— 創元社
- 小川捷之 (1972) 事例Ⅳ・13 夢について面接を進めていった大学生 (田中熊次郎編著, 教育相談臨床事例集Ⅱ, 明治図書, 207-224)
- 小川景子 (2006) レム睡眠中の急速眼球運動に伴う脳電位と夢見の精神生理学的検討 広島大学大学院総合科学研究科紀要, 人間科学研究, 1, 119-121.
- 岡部聡美・福田一彦・望月寛子・山田一夫 (2017) REM睡眠中の嗅覚刺激呈示が夢と生理活動に及ぼす効果—おおいの好悪特性に着目した検討— 日本心理学会第81回大会発表論文集, 408.
- Okabe S, Hayashi M, Abe T, Fukuda K (2020) Presentation of familiar odor induces negative dream emotions during rapid eye movement (REM) sleep in healthy adolescents. *Sleep Medicine*, 66, 227-232.

- 岡田斉 (2018) 明晰夢に関わる認知的要因についての検討—視覚的探索・系列位置効果と明晰夢の関連— 日本心理学会第82回大会発表論文集, 476.
- 岡田斉・石井美紀 (2012) 明晰夢体験に関連する認知的要因についての検討—変化の見落とし課題とStroop効果を用いて— 日本イメージ心理学会第13回大会プログラム・発表論文集
- 奥田勲 (1978) 明恵上人の夢記と夢について (高山寺典籍文書総合調査団編, 明恵上人資料 第二, 東京大学出版会, 221-233)
- 大熊輝雄 (1968) 夢の精神生理—最近の夢研究の方法論をめぐって— 総合臨床, 17(12), 2467-2472.
- Okuma T (1992) On the psychophysiology of dreaming: A sensory image-free association hypothesis of the dream process. *Japanese Journal of Psychiatry*, 46, 7-22.
- Okuma T, Fukuma E, Hata N (1970) "Dream detector" and automatization of REMP-awakening technique for the study of dreaming. *Psychophysiology*, 7, 508-515.
- 大西玲一 (1987) 子供の性心理—夢分析による小学生の性心理の深層— 冬夏書房
- Ouchene R, Habchi NE, Demina A, Petit B, Trojak B (2023) The effectiveness of lucid dreaming therapy in patients with nightmares: A systematic review. *L'Encephale*, 49(5), 525-531.
- 尾崎裕 (1998) 沈亞之「秦夢記」に関する一考察 立命館文學, 556, 240-261.
- 尾崎裕 (2000) 志怪・傳奇の夢について—『太平廣記』「夢」所収の話を手がかりとして— 學林, 32, 87-111.
- 尾崎裕 (2001) 「枕中記」と「南柯太守傳」—その《梓》を手がかりとして— 學林, 33, 77-108.
- 小澤幸夫 (1997) ヘッセの『夢日記』と『デーミアン』の成立 国際経営論集, 14, 97-132.
- 劉文英 (1989) 夢的迷信与夢的探索 中国社会科学出版社 (湯浅訳, 1997, 中国の夢判断, 東方書店)
- 笹生美貴子 (2008) 「夢」が見られない大君—宇治十帖の〈父〉〈娘〉を導くもの— 日本文学, 57(9), 23-34.
- 笹生美貴子 (2014) 明石一族を取り巻く「夢」—“夢実現の共同体”の視座から— 日本研究, 50, 41-59.
- 笹生美貴子 (2023) 源氏物語夢見論 文学通信
- 佐藤朋子 (2006) 「局所論的退行」について—フロイトにおける退行の觀念の起源から— 一九一七年までの發展の分析 I. R. S.—ジャック・ラカン研究—, 5, 180-205.
- 施竣訳・松田英子 (2024) 明晰夢を想起しやすいパーソナリティ特性—中国人大学生を対象としたBig Fiveとストレスコーピングスタイルからの検討— パーソナリティ研究, 33(2), 106-108.
- 島尾敏雄 (1973) 記夢志 冥草舎
- 島尾敏雄 (1978) 夢日記 河出書房新社
- 清水 (上野) 洋子 (2015) 夢書の受容に関する一考察—『夢占逸旨』を例として— 中国研究集刊, 60, 107-123.
- 清水 (上野) 洋子 (2019) 『夢占逸旨』の研究—中国の「夢」の思想— 汲古書院
- 孫嘉寧 (2018) 北海道アイヌの夢にまつわる口承文芸に関する文化人類学的考察—互酬性を中心に— 北海道民俗学, 14, 45-64.
- 末知子 (1982) 小中学生の夢の發達の差異 熊本大学教育学部心理学専修卒業論文
- 角南讓 (1969) 慢性分裂病者の夢の精神生理学的研究—精神病者の夢の研究 (第I報)— 精神神経学雑誌, 71, 980-997.
- 鈴木謙次 (1958) 発声困難症Dysphonia患者の精神分析学的研究 (その一) 精神分析治療中の夢の研究[1]—その技法的研究— 精神分析研究, 5(2), 3-9.
- 多川俊映 (2002) 『多聞院日記』にみえる夢 季刊 悠久, 88, 67-79.
- 高橋秀城 (2008) 頼瑄の夢想 智山学報, 57, 83-104.
- Takao H (1998) Symbolic meanings of island in dreams. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 52, 59-62.
- 高山宏 (2011) 夢十夜を十夜で はとり文庫
- 竹中肇子 (2010) 夢が導くストーリー—アーサー王物語における夢の役割— (山本長一・川成洋・吉岡栄一編, 文学の万華鏡—英米文学とその周辺—, れんが書房新社, 155-171)
- 竹尾生気 (1970) 睡眠時の生理学的諸指標と夢体験—夢の精神生理学的研究 (第II報)— 精神神経学雑誌, 72, 1-18.
- 田中聖子 (1993) アイヌ口承における「夢」について 日本文化, 15, 229-249.

- 鐘幹八郎・平野潔（1985）夢の主題に関する調査研究—性差・年齢差についての検討— 広島大学教育学部紀要, 第1部, 第33号, 149-158.
- Tazuke K (2021) Dream structure characteristics of modern Japanese people: A focus on differences with age. 箱庭療法学研究, 34(2), 41-50.
- 筒井優介（2015）夢PCAGIPの試み—グループにおける相互作用の活用— 関西大学臨床心理専門職大学院紀要, 5, 73-81.
- 筒井優介（2018）夢PCAGIPにおいて意味はどのように成立しているのか—ある妊娠の夢を事例として— 人間性心理学研究, 36(1), 21-31.
- 筒井優介（2024）《自己への気づきのコミュニティ》夢PCAGIPの実践（村山正治・中田行重編著, PCAGIP法の実践—対人援助職を支える新しいパラダイム—, 創元社, 137-142）
- 上野勝之（2013）夢とモノノケの精神史—平安貴族の信仰世界— 一般社団法人京都大学学術出版会
- 上野勝之（2015）平安時代における僧侶の“夢記”—九世紀以前の僧と夢—（荒木浩編, 夢見る日本文化のパラダイム, 法蔵館, 115-180）
- 上野洋子（2004a）『夢占逸旨』研究—陳士元の「夢」の思想— 大阪大学大学院 平成15年度修士論文
- 上野洋子（2004b）『夢占逸旨』外篇について 待兼山論叢, 哲学篇, 38, 65-78.
- 上野洋子（2005）『夢占逸旨』にみる陳士元の夢の思想—「真人不夢」をめぐる— 東方宗教, 105,
- 渡辺恒夫（2003）明晰夢—実験的検討と心理的条件— 国際生命情報科学会誌, 21(1), 159-165.
- 山田昭全（1971）明恵の夢と「夢之記」について 金澤文庫研究, 17(1), 1-11.
- 山田雅教（1986）伝親鸞作「三夢記」の真偽について 高田学報, 75, 56-71.
- 山中忠茂・森田雄介・松本淳治（1981）REM睡眠期覚醒法による大学生の夢内容の分析 1 下宿における夢 四国医学雑誌, 37(1), 61-68.
- 山根望（2006）妊娠・子育て期における夢の機能—ある初産婦の能動的夢分析から— 山口大学心理臨床研究, 6, 30-41.
- 山根望（2011a）妊娠期における夢の機能—初産婦5人の夢分析から— 山口大学大学院 東アジア研究, 9, 23-42.
- 山根望（2011b）妊娠期の夢に現れた夫との関係性—初産婦5人の夢分析から— 山口大学大学院教育学研究科附属臨床心理センター紀要, 2, 31-43.
- 山根望（2015）妊娠期の夢に現れた母性に関する研究—初産婦5人の夢分析から— 風間書房
- 吉田巖（1912）夢に関するアイヌの説話 人類学雑誌, 28(7), 394-403.